



かわいっ子

河合小だより

令和4年2月

「強く 正しく 温かく」－他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成－

文責：学校長



阪神・淡路大震災について

吉岡 優

1995年（平成7年）1月17日5時46分52秒、兵庫県淡路島北部沖の明石海峡を震源として、マグニチュード7.3の大地震を「**阪神・淡路大震災**」と呼びます。

兵庫県を中心に近畿圏の広域が大きな被害を受けました。特に震源に近い神戸の被害は甚大で、近代都市での災害として、日本国内のみならず世界中に衝撃を与えました。犠牲者は6,434人、当時戦後発生した自然災害としては最悪のものでした。



2021/1/15 神戸新聞 NEXT

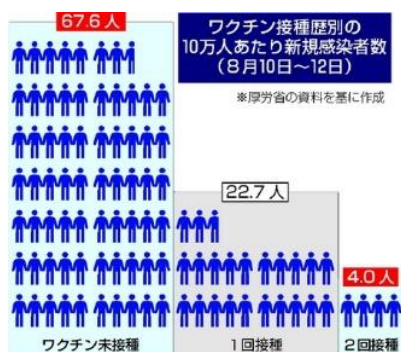
振り返ってみると今でもその日のことが鮮明に蘇ります。早朝、私の自宅が大きな揺れに見舞われました。私は当時中学校勤務で、いつものように部活動の朝練に行くと半数以上の生徒が来ていません。あとで聞くと「地震の揺れで食器棚が倒れて、片付けをしていました。」とか「上から物が落ちてきてけがしました。」など地震の被害がわかるものでした。その日は授業をしても何回か余震もあり、体感できる揺れが何回もあったのも覚えています。授業の合間に職員室にあるテレビから流れる死者数は時間の経過とともに膨れ上がるのを見て、「これは大変な災害だ」と恐怖と驚きを感じたことも思い出されます。



ALSOK（公式HP）より

さて、災害に対する備え・対応などを「防災」と言いますが、近年「減災」ということばも使われるようになりました。**防災**は「災害を防ぐ」、**減災**は「災害を減らす」と読めます。どちらも災害への備え・対応を意味しますが、厳密には「防災は災害を未然に防いだり、災害による被害を防いだりする」、一方「減災は災害の被害を最小限に抑えるための準備・心構え」を意味します。1.17を機に、ご家庭で防災・減災について話し合ってみてはいかがでしょうか。

新型コロナウイルスについて



「ワクチン2回接種後も感染対策を新潟県内専門家「ブレークスルー」警戒 (2021/08/23 新潟日報: 左表)

少し古い記事ですが、新型ウイルス感染対策の救世主ともいわれるワクチンですが、一定数ブレークスルー (BT) 感染があるとの記事です。別報道によると「重症化を防ぐ効果は期待できる」とのことですが、私が心配なのは現時点でワクチン接種対象でない

11歳以下の子どもたちのことです。上表からBT感染とともにワクチン未接種者の感染者数が他に比べ、圧倒的に多い。すなわち、本校を含め、小学生以下の子どもの感染拡大には最高レベルで警戒しなければならないということです。特に感染力の高いオミクロン株は言わずもがなです。



実は年頭オミクロン株の感染の拡大が危惧されたので、始業式で新型コロナ感染対策について全校生で再確認をしました。子どもたちは静かに、しっかりとお話を聞いていました。いずれにせよ、対策と同時に、「早寝早起き朝ごはん」をはじめ、規則正しい生活習慣で健康を維持するのが対策の一丁目一番地です。例えばネット視聴時間の制限、好き嫌いせずに栄養補給など身近なところから始めましょう。

1. 3密回避 (ソーシャルディスタンス)
2. 手指消毒・手洗い・マスク
3. 定期的な換気・共有物の消毒徹底
4. 規則正しい生活で丈夫な体づくり
5. 黙食

節分 (せつぶん) について

節分とは、「鬼を追い払って新年を迎える、立春の前日の行事」のことです。立春の前日ですが、実は立春の日は年により異なるため2月3日とは限りません。二十四節気において立春は新年の始まりで、節分は大みそか的な日で、江戸時代までは同じように一年の締めくくりの日としての位置づけだったようです。



鬼を追い払う行事は、「おにやらい」(追儺) という宮廷の行事が発祥だそうです。なぜ豆をまくか知っていますか。諸説ありますが、「豆は『魔を滅する=マメ』に通じ、語呂がいいから」といわれているそうです。行事としては豆まきの他、柊鯛(ひいらぎいわし)、恵方(今年は北北西やや北)巻き、地方によっては落花生をまいたり、節分そばを食べたり…。調べてみるのもいいかもしれません。